

アメリカにおける感染症対策 最近の動向

アメリカにおけるウエストナイルウイルスへの対応および、バイオテロリズム発生後の感染症対策についての関連情報を集めました。ウエストナイルウイルスの情報に関しては、厚生労働省のサイト (<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/tp1023-1.html>) と合わせてご参照ください。

○ウエストナイルウイルス関連情報

米国ではウエストナイル脳炎が猛威を振るい、国民を不安に陥れている。感染者は日々増加し、死者はすでに 200 人を超えている。なかでも高齢者の感染は重症化するリスクが非常に高く、死に至るケースも少なくない。軽症であれば発熱があり 2 ~ 3 日で完治するが、重症化すると、脳炎、髄膜炎を発症する恐れがある。蚊を媒介として感染する。そのため、公衆衛生当局は殺虫剤の散布などを実施している。一方、米国疾病管理センター (CDC) はホームページを通じて「蚊」に刺されないよう国民に注意を呼びかけている。
(日医総研アメリカ・ドイツ医療研究班)

米国のウエストナイルウイルス関連のウェブサイトは下記の通り。米国への旅行者、留学生、米国駐在者あるいは、米国からの旅行者など、米国との行き来は大変盛んであるため、日本国内でも注意が必要である。鑑別診断に際しては、旅行歴などを確実に取る必要がある。

ウエストナイル脳炎に関する総括的な情報は、米国疾病管理センター (Center for Disease Control and Prevention, CDC) や厚生労働省のホームページを参照のこと。

米国内科専門医、米国感染症科専門医、英国熱帯医学専門医
日医総研海外駐在員 五味晴美

* 米国疾病管理センターの関連サイト

<http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/index.htm>

* 米国医学雑誌 New England Journal of Medicine (10月17日号に関連記事)

www.nejm.org

以下は PDF ファイルによるサイト

ウエストナイルウイルスの概観について

<http://content.nejm.org/cgi/reprint/NEJMp020128v1.pdf>

ウエストナイルウイルスによるポリオ様症状について

<http://content.nejm.org/cgi/reprint/NEJMc021587v1.pdf>

<http://content.nejm.org/cgi/reprint/NEJMc026043v1.pdf>

○バイオテロリズム関連情報

昨年の炭疽菌によるバイオテロリズム発生後、米国連邦政府は、感染症情報を収集するためのネットワークの整備や、予防接種対策の強化など、バイオテロリズムを想定した様々な施策を推進している。

こうした施策の一環として、今年6月には「The Public Health Security and Bioterrorism Response Act of 2002（市民の健康と安全の確保とバイオテロリズムへの対応に関する法律2002）」が成立した。もっとも注目されるのは、感染症情報を収集するために、州の保健局と医療機関の間の情報ネットワークを整備する方針が打ち出された点だ。

従来は地域の保健局と米国疾病管理センター（Centers for Disease Control and Prevention＝CDC）の間にネットワークがあるだけで、医療機関はこのネットに参加していなかった。医療機関からの感染症情報収集が各州政府の責任で実施されていたため、エイズ患者の届け出を病院の任意としている州さえあった。

こうした事態を重く見た連邦政府は今回の法律に州政府の感染症情報収集体制の整備を支援する予算措置を盛り込んだ。州政府が州内の医療機関、保健局のネットワーク化を図るのに必要な経費を連邦政府が負担するという内容だ。CDCと各州保健局のネットワークはすでにあるため、医療機関のネットワーク化が順調に進めば、全米を網羅する「感染症情報収集ネットワーク」が完成することになる。

連邦政府と州政府の役割が明確に区分され、両者がほぼ対等の関係にある米国では、しばしば連邦政府が打ち出した政策に州政府が抵抗することがある。感染症対策もご多分にもれず、かつては中央のCDCと各州の保健局との間に摩擦があり、これがネットワーク整備の「足かせ」になっていた。予算だけつけて後は州政府の自主性に委ねるといった今回のやり方は連邦政府の苦肉の策といえる。

法律のもうひとつの柱は予防接種対策で、天然痘ワクチンの備蓄や新しいワクチンの承認を迅速化するための措置などが盛り込まれている。

（日医総研アメリカ・ドイツ医療研究班）

下記は米国疾病管理センター（CDC）が公表している、天然痘によるバイオテロリズム発生後のワクチン接種に関するガイドラインのウェブサイトである。今回、紹介するのは天然痘によるバイオテロリズムが発生する前の事前のワクチン接種ではないことに、留意

していただきたい。一般市民への事前のワクチン接種は、依然として推奨されていない。
より詳細は、CDC のホームページ (<http://www.bt.cdc.gov>) も参照のこと。

米国内科専門医、米国感染症科専門医、英国熱帯医学専門医
日医総研海外駐在員 五味晴美

1 . CDC 発表の概観のためのウェブサイト

(2 以降のウェブサイトは、すべてここからアクセスできる)

<http://www.bt.cdc.gov/documentsapp/SmallPox/RPG/index.asp>

2 . 各地方の保健所などでの天然痘ワクチン接種対応マニュアル

<http://www.bt.cdc.gov/agent/smallpox/vaccination/pdf/smallpox-vax-clinic-guide.pdf>

(949KB/48 ページ)

3 . CDC の総括的コメント

PDF ファイル (91KB)

<http://www.bt.cdc.gov/documentsapp/smallpox/rpg/frontpgs/Sections-i-iv.pdf>

ワードファイル (107KB)

<http://www.bt.cdc.gov/documentsapp/smallpox/rpg/frontpgs/Sections-i-iv.doc>

4 . CDC スタッフによるマスコミとの電話インタビュー記録

<http://www.cdc.gov/od/oc/media/transcripts/t020923.htm>

5 . CDC のプレスリリース (マスコミへの発表内容)

<http://www.cdc.gov/od/oc/media/pressrel/r020923.htm>